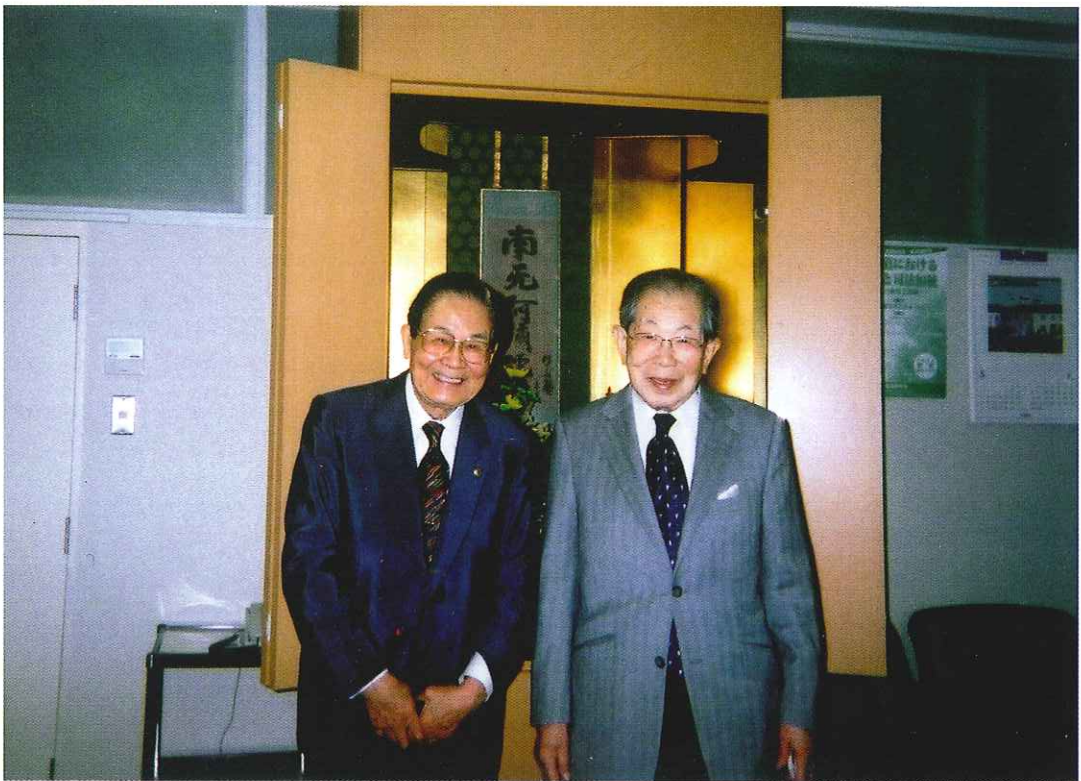


社会福祉法人・黒松内つくし園会報



ブナの里



日野原重明先生㊦と広瀬清蔵理事長＝6月28日、札幌大谷大学記念ホール

社会福祉法人・黒松内つくし園の倫理綱領3宣言

- ①全ての人は自由であり、また権利も平等に生活を営む。
- ②当法人は、あらゆる意味で生活の中心は利用者に存する。
- ③全ての人は倫理綱領に従い、その能力、徳性以外の差別を除き平等である。また各施設利用者と職員は互いに敬い合って暮らす。

2008年

64号

日野原先生から学ぶ『音楽療法』

社会福祉法人黒松内つくし園

理事長 広瀬清蔵

六月二十八日(土)に札幌大谷大学記念ホールで第二十回札幌大谷大学・短期大学部公開講座「日野原重明先生をお迎えして」が開かれ受講、勉強してきました。日野原先生の講演が約一時間半、そして「音楽療法に関心のある全ての方へ」をテーマに中山ヒサ子氏(札幌大谷短期大学部教授)がコーディネーターで、日野原先生と札幌大谷大学長の太田清史氏との鼎談も行われた。

○五年の文化勲章受章者で、生活習慣病の言葉を生み出すなど終末期医療の大家で知られる日野原先生は、音楽療法について人間は受胎してから、まず耳(聴覚)が発達して胎内で水を通して音を聞きながら成長していく。誕生の十五日くらいで目が見えるようになって動くものに対し愛情を感じるようになる。五感の感覚で、耳が我が身を守りながら成長していくという。そして見えない、聞こえない、話せない三障害を負ったヘレンケラーが皮膚感覚により知識を得ていく例をあげ、五感の

日野原重明氏(ひのはらしげあき)一九二一年山口県生まれ、終末期医療の普及に尽力。成人病を「生活習慣病」という言葉を生み出す。○五年に文化勲章受章。日本音楽治療学会理事長、聖路加国際病院理事長。著書に「音楽の癒しの力」など。

大切さを強調されました。

私が感心したのは、九十六歳と高齢の日野原先生が、終始立ったままで背筋を伸ばしてお話しされていることでした。お話は「音楽療法士の資質について」がテーマで、それは「人としての感性をどう育てていくか。いかにして人間になっていくか」という一番根っここの土台の部分を示して下さっていました。

子供と一緒に関わっていく仕事なので、相手の事を考え、自分が伝えたいことを上手に伝えるにも感性が大切という。音楽に関わる医学でも理論と技術が伴っても大切なのは、パフォーマンズ、患者とどう関わるのか、から始まるということを考えさせられました。音楽の本当の意味は「生きていく」で、とても大切な表現の仕方なのだと言うことを学び、感動しました。

印象に残ったことは、「感性」は環境によっても変わるといことです。そして感性の高さはどのような職業でも必要といことです。

「死」に対して考える話がありました。生きていく者と死に行く者の時空を越えた連帯感として用いられるという「音楽」。死に直面した時にその人にとってどんな音楽が適していたのか。日頃から自分の心地よい音曲を身近な人に伝えようと思いました。

おもしろさの中にとっても大事なことが多く含まれており、特に印象に残ったのは「人間が生きている」ということは必ず誰にでも限界がある」。そして限界が来た時の「死

んでいく方」への考え方です。日野原先生は、現役の医者で、仕事を通して生と死を感じられて生きているのでしょうか。話しに説得力があり、人は支え合って生きているという言葉が印象的でした。患者さんの話しを聞いてという中で、病気の診断が出来るというのも領けました。保育でも子供や保護者から聞く中に気持ちを理解し、そこにあった保育を進めていくことだと考えさせられました。

「音楽療法」という言葉は知っていましたが、音楽というものが私たち生きていく中で重要な意味があることを今回の日野原先生の話を通して改めて感じる事が出来ました。環境は保育の中でも大切なことではないかと思っていたので、いまゼロ歳児を身近にかかえ環境により感性が変わるという話しは、これからの保育の中で活かしていかなければと強く感じました。

日野原先生の講座に参加させていただき「音」の大切さを改めて感じる事ができました。声のトーンで相手に与える印象も変わるとの話しもあり、本当にその通りだと思いました。

(以上、私を含め講座と一緒に受講した道福祉施設士会の伏見達子副会長ら受講した人たちの感想をもとにまとめました。七月には、札幌大谷大学から学生約五十人が、私たちの黒松内町を訪れ、二日間にわたり道の駅や開正寺でコンサート、そして法人の各施設に出向いて歌を通して利用者のリハビリ・リフレッシュ・コミュニケーションに繋がる「音楽療法」を紹介してもらいました)

札幌大谷大学がボランティア

法人6施設で音楽療法

札幌大谷大学音楽学部の学生が七月十二と十三日、法人六施設で音楽療法を行い、施設利用者らと触れ合った。音楽療法は聞く、歌う、器楽演奏を通じて心身の平穏化や活性化作用があるため、心理療法に有効と言われ、最近では認知症の高齢者の身体機能の維持、回復などに活用されている。緑ヶ丘ハイッでは、大ホールを会場に「夏は来ぬ」「シャボン玉」などの歌に合わせて、利用者と学生が向かい合い互いの両手を合わせたリ写真Ⅱ、風船などを使って、遊び感覚の中でリフレッシュ。利用者も学生から若さをもらい、笑顔があふれていた。



用されている。緑ヶ丘ハイッでは、大ホールを会場に「夏は来ぬ」「シャボン玉」などの歌に合わせて、利用者と学生が向かい合い互いの両手を合わせたリ写真Ⅱ、風船などを使って、遊び感覚の中でリフレッシュ。利用者も学生から若さをもらい、笑顔があふれていた。

大鳥神社境内で、恒例の清掃ボランティア

例大祭を前に、老人ホームのお年寄りが汗

緑ヶ丘老人ホームのお年寄りが八月二十四日、黒松内町の氏神・大鳥神社の境内で草取りや清掃作業に汗を流したⅡ写真Ⅱ。



八月二十五、二十六日の神社例大祭を前にした恒例のボランティア。同ホーム創設の昭和三十六年から四十七年間続けている伝統の社会奉仕。

利用者、職員十二人が参加。前日の暴風雨のため、枝葉の散乱も目立ち、参加者は竹ぼうきなどを手に一生懸命に作業。長年の奉仕に対する返礼か、毎年二十五日の宵宮には、神職らがホームを訪れ、松前神楽を奉納している。

法人で迎春採用の職員募集

一、職種

保育士、介護員、支援員、看護師、管理栄養士、介護支援専門員（ケアマネ）等

一、勤務先

①児童養護施設「黒松内つくし園」②知的障がい児施設「しりべし学園」③知的障がい者更正施設「しりべし学園成人寮」④養護老人ホーム「緑ヶ丘老人ホーム」⑤特別養護老人ホーム「緑ヶ丘ハイツ」⑥身体障害者施設「後志りハビリセンター」⑦介護老人保健施設「湯の里・黒松内」(以上黒松内町)⑧養護老人ホーム「慶和園」(京極町)と⑨迎春四月に俱知安町内に開設する共生福祉施設「認知症グループホーム」等

一、待遇

給与(賃金)短大、専門校卒の初任給一六万円等、経験者優遇あり、手当て法人規程による。休日年間一〇四日のほか有給休暇、育児、介護休暇有り。

一、応募締め切り 平成二十年九月十六日(火)

一、採用面接日 平成二十年九月二十三日(火)

一、面接会場

黒松内町黒松内の法人本部

一、必要書類

履歴書(身上書付き)、健康診断書、資格等の写し、最終学校卒業証明書(卒業見込み書)写し

一、連絡や詳細等の問い合わせ

〒〇四八-〇一〇一 寿都郡黒松内町黒松内五六二
社会福祉法人黒松内つくし園 法人本部
電話 〇一三六-七七一-二八三三

■法人会務の運営状況（平成20年7月～8月開催分）

◆七月十日 事務担当者会議

【主な議題】平成二十年度補正予算について、『各資格取得の為の講習会・受験・合格者の処遇について』その他確認事項など

◆七月十八日 施設長・副施設長会議

【主な議題】平成二十年度第二次補正予算（案）について、平成二十一年度採用職員について、俱知安町新規事業の進捗状況について、『給与規程』・寒冷地手当の一部改正について、黒松内保育園認定こども園の実施について、など

◆七月十八日 人事考課委員会

【主な議題】自己記録（評価）実施について、各施設からの課題点について、各施設事例の検討

◆七月三十一日 理事会（第三百二十三回）

【報告事項】建設委員会会務報告、理事長専決処分（諸規程の改正等）、諸般の報告など

【議案】平成二十年度第二次補正予算（案）について、しりべし学園成人寮通所部の定員変更について、認定こども園について、『経理規程』の一部改正について、俱知安町新規事業について、施設長人事

について、『定款』変更について、その他

◆八月八日 事務担当者会議

【主な議題】物価上昇に対する対応の検討について、内部監査後の改善事項について、特殊建築物定期検査（非常照明設備）点検・消防設備点検業者選考について、その他確認事項など

◆八月二十日 施設長・副施設長会議

【主な議題】病院との契約について、平成二十一年度職員採用について、『旅費規程』における外勤との整合性について、黒松内保育園認定こども園の実施について、特殊建築物定期検査（非常照明設備）点検業者選考について、消防設備点検業者選考について、中央競馬馬主社会福祉財団からの助成内示報告など

◆八月二十七日 苦情解決委員会（第五十回）

【主な議題】利用者サービスなどのアンケート調査について

◆八月二十八日 人事考課委員会

【主な議題】事例研修、各施設の実施状況報告、その他

社会福祉法人黒松内つくし園

理事 理事
常務理事 事務理事

評議員

監事

増小五佐安広岡西武鈴井小逢三鈴稗池武上蔵菅茂中広 役員
田原尾藤田瀬久田知木澤川見坂木田田井山田原尾西瀬 員
義良悦辰 二昭 末幸 正静有光忠貞正 正清 一
任繁肇一一子雄稔夫文寛子一司吉男一秋義子久実清蔵 覧

高江常男先生が逝去されて一周忌を期に発行された追悼集「永遠の炎」をご寄贈いただき、ありがとうございます。早速、読ませていただきましたが、高江先生の偉大な姿が各職員ににじみ出ており、非常に感銘を覚えました。

また職員のいろいろな声の中から、職員の資料にも赤ペンで修正を加えるといった繊細な面もあったとのこと、私にはとても真似のできることでないことを実践されており、高江先生の氣勢を知ることができました。

高江常男氏の 一周忌に寄せて

高江先生は、昭和二十九年から社会福祉事業を始められ、昭和三十一年から始めた私にとつては先輩になります。同期のように一緒に仕事をさせていただき、施設の経営についていろいろと教えていただきました。失明、十六歳に両腕をなくしてから、自分の歩む道を切り開き、北海道先生舎を日本一の授産施設に築きあげられました。その強い意志、ご努力に敬服のほかありません。

高江先生は、平成十三年一月二十八日に倒れ、平

成十九年七月二十七日に亡くなるまでの六年半以上にわたる闘病生活を送ったようですが、入院中には私も当法人の常務理事だった稗田静男氏とお見舞いに行つたこともあり、懐かしく思い出されます。

奥様はじめ理事長の高江智和理様、ほかの多くの皆様に看取られ、天に召されたことで高江先生も悔いはない人生だったのではないかと感じております。

追悼集を読み、併せて以前にいただいた北海道先生舎のDVDの映像を見ながら、高江先生を偲んでおります。

なお、誠に厚かましいお願いで恐縮ではありますが、私どもの職員にも読んでもらうため当法人の書棚に保管しておきたく、もし追悼集「永遠の炎」の在庫に余裕がございましたら、もう一冊お譲りいただきたいとお願いもうしあげます。

社会福祉法人黒松内つくし園理事長 広瀬清蔵





社会福祉法人 黒松内つくし園

法人本部 〒048-0101 北海道黒松内町黒松内562-1
Tel. 0136-72-3033 Fax. 0136-77-2833
E-mail honbul@viola.ocn.ne.jp
URL <http://www.tukusien.com/>
【blog】 <http://www.tukusien.com/blog/>

児童養護施設 黒松内つくし園

(地域小規模児童養護施設『ホームすぎな』・子育て短期支援事業)
〒048-0101 黒松内町黒松内562-1 Tel.0136-72-3033

養護老人ホーム 緑ヶ丘老人ホーム

(老人短期入所事業・居宅介護等事業『黒松内つくし園ホームヘルパーステーション』)
〒048-0101 黒松内町黒松内562-4 Tel.0136-72-3139

老人デイサービス事業 黒松内町デイサービスセンター

(居宅介護支援事業『黒松内つくし園居宅介護支援事業所』)
〒048-0101 黒松内町黒松内562-4 Tel.0136-72-3750

知的障害児施設 しりべし学園

(短期入所事業・児童デイサービス事業・日中一時支援(タイムケア)事業)
〒048-0101 黒松内町黒松内565-2 Tel.0136-72-3173

知的障害者更生施設 しりべし学園成人寮

共同生活援助事業『いずみホーム』(いずみホーム・すずらんホーム・さくらホーム・ひまわりホーム)

知的障害者更生施設 しりべし学園成人寮通所部

〒048-0101 黒松内町黒松内565-2 Tel.0136-72-3173

特別養護老人ホーム 緑ヶ丘ハイツ

(老人短期入所事業)

診療所 緑ヶ丘ハイツ診療所

〒048-0101 黒松内町黒松内563-1 Tel.0136-72-3330

身体障害者療護施設 後志リハビリセンター

(障害者短期入所事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内563-6 Tel.0136-72-3767

保育所 黒松内保育園

〒048-0101 黒松内町黒松内303-4 Tel.0136-72-3230

障害者就労支援施設 羊蹄セルフ

身体障害者福祉ホーム 羊 蹄

俱知安訪問・居宅介護ステーション『つくしんぼ』

〒044-0085 俱知安町峠下113-14 Tel.0136-23-0425

養護老人ホーム 慶和園 (特定施設入居者生活介護事業所)

(訪問介護ステーション『スマイル』)

特別養護老人ホーム ユニットケア慶和園

(老人短期入所事業・障害者短期入所事業)

〒044-0132 京極町更進780-1 Tel.0136-42-2201

介護老人保健施設 湯の里・黒松内

(短期入所療養介護事業・通所リハビリテーション事業)

〒048-0101 黒松内町黒松内565-1 Tel.0136-77-2120

神輿の下をくぐり健康祈願

大鳥神社例大祭にぎやかに

黒松内に秋の訪れを告げる、大鳥神社例大祭の本祭は八月二十六日。法人からもしりべし学園の山車やつくし園のやつこなどが参加し、にぎやかに行われたⅡ写真Ⅱ。
若者が担ぐ、威勢のよい神輿を先頭にしまつり行列は、法人の各施設を回り、お年寄りのいる緑ヶ丘老人ホームや緑ヶ丘ハイツでは、神輿の下をくぐり、健康を祈願。「これが済まないとまつりが終わらん」と、心待ちにしていた様子。

このあともきれいに化粧し、和服に着飾った女の子らの踊り山車もお目見え。かわいいうぐさの日舞に大きな拍手が送られた。



ラーメン屋台がやってきた

つくし園の子供たちに無料提供

児童養護施設・黒松内つくし園に七月三十日、移動式ラーメン屋台が訪れ、子供たちに本場の博多ラーメンをご馳走したⅡ写真Ⅱ。

施設の子供たちにお腹いっぱい食べてもらいたいと、ラーメンチェーン店のジンコーポレーションとボランティアグループ「メロンの会」の共同事業で、「全国ボランティアラバン」の一環。

厨房を備えたトラックの屋台が、昼食に合わせて玄関前で店開き。珍しい移動式のラーメン店に、子供たちも興味津々。「おいしいよ」と、熱々ラーメンに息を吹きかけ、替え玉七個を平らげる男の子も。約六十人の子供たちが笑顔で満腹。



小樽・後志社会福祉大会に参加して



後志リハビリセンター施設長
福 士 憲 昭

八月二十一日、岩内町で第六十二回小樽・後志社会福祉大会が開催され、管内の福祉関係団体、民生委員・児童委員、福祉施設職員など約五二〇人が集い、私も参加させていた。大会スローガンは「心の通う温かい社会福祉の推進」と「住民の手で地域福祉の実現を」で、まさに私たちが今求められているものでありました。

大会長の広瀬清蔵当法人理事長が冒頭に「今、目まぐるしく福祉関係法制度が変化しているが、管内の社会福祉関係者が一堂に会し、当面する福祉の問題について共通の認識を深めることは大変に意義がある」と式辞。式典後は、ふれあいコンサートが行われ、心象音楽家の華心(けしん)さん、札幌在住の胡弓演奏と、演奏活動を通しての「人とのふれあい」の体験を話された。私は胡弓の生演奏は初めて。その独特の音色に東洋の神秘を感じるとともに日本の歌謡曲とのマッチングは素晴らしいものでした。

記念講演は岡山県の川崎医療福祉大学の学長である岡田喜篤先生。演題は「弱者に寄り添う視点〜いま、福祉でまちづくりをするために」。内容は地球的規模の大変グローバルな内容で、弱者とは一部の特権階級者や富豪者以外のすべての人々、つまりそれは一般市民であることを前提にして「人について」「社会について」「地球について」の三領域の諸問題を提

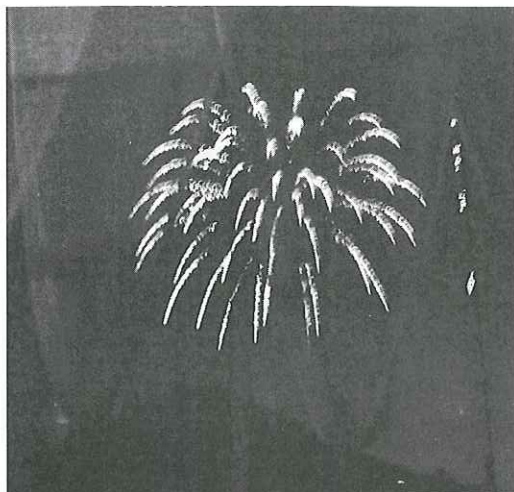
起されました。

国内で家族が家族を殺傷したり、友人が友人を殺傷する事件、無差別の通り魔殺人、世界各国で発生が無差別テロなどは、まさに人間として異常な現象である。またキリスト教、イスラム教、ユダヤ教などが、神の名をもつて正当化した殺戮(さつりく)が世界各国で起こっている。さらに民主主義の思想が市場経済第一主義の名のもとに富み魅力に支配されて、本来の論理を越え、マネーの欲望を抑えきれなくなっている。そして地球温暖化の問題が深刻であるのにもかかわらずアメリカ、中国、ロシアの超大国が経済発展を優先し、二酸化炭素の排出に関する国際的合意ができないなどを説明した。

私が、強く関心を抱いたのは「人類以外の動植物は何千年もの間、地球の環境に順応、適応しながら進化発展してきた。しかし人類だけは、地球の様々な自然資源を破壊し、利用しながら現在も発展進化し続けている。資源は無尽蔵ではなく、いずれ、すべて枯渇する。すでに地球環境破壊は、地球自体が持つ自己回復能力の限界を超え瀕死の状態、さらに世界の人口が二〇五〇年に七〇億人、七〇年には百億人に膨張して人口爆発が起こり、同時に自動車も急増して大量の石油を消費して環境汚染と温暖化が進み地球の終焉、そして人類滅亡に至るといふ環境考古学者の学説が注目されているといふ。このため今、必要なのは科学(化学)の追求より非科学(哲学や芸術)を大切にすることが大事」との話に深い印象を持ちました。つまり私たち一人ひとりが必要以上の利便性を求めたり、必要以上の自然破壊をしないことに協力しなければと痛感した。

08法人の夏

海開き、夏休み、お盆—後志の夏が駆け足で過ぎていった。法人の各施設も「利用者のために」と、さまざまなイベントに工夫を凝らし、短い夏をもう歌。以下は、涼を求めた各施設の夏の思い出のひとつコマを写真で紹介。



シルエットの羊蹄山をバックに夜空を焦がす大輪の花火（慶和園）



海水浴はやっぱりスイカ割り（つくし園）



大きな踊りの輪に笑顔もいっぱい。しりべし学園、同学園 成人寮の盆踊り



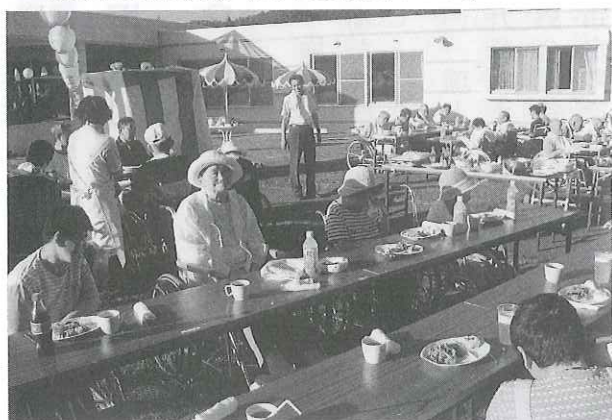
今年のバスレクは島牧方面。寿都町の弁慶岬でひと休み（湯の里・黒松内）



故人の遺影に手を合わせ、厳かに執り行われた盆供養（緑ヶ丘老人ホーム）



短冊に願いを込めて。緑ヶ丘ハイツ恒例の七夕コンサート



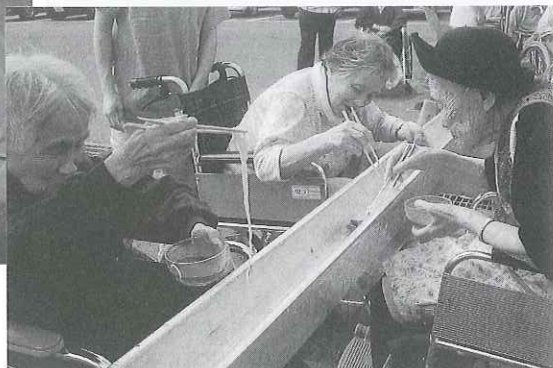
後志リハビリセンターの七夕ビアガーデン。
夏はビールの季節



願いは「子供たちの健やかな成長」。
黒松内保育園の七夕まつり



夏の夜の風物詩・花火遊び。時の経つのも忘れて（しりべし学園、同学園成人寮）



涼味たっぷりの流しソーメン
（慶和園）

「えぞふじ納豆」の原料大豆

中国黒龍江省の大豆圃場視察記

羊蹄セルプ工場長 古川 清子

八月十一日から十七日までの一週間、施設の藤田浩孝事務長とともに中国黒龍江省の大豆圃場を視察してきました。

当羊蹄セルプは、障害者の就労訓練の一環として生産事業を行っており、その生産事業の主力が「えぞふじ納豆」の製造。北海道の大手ホテルはじめ全国各地のお客様と取り引きしていただいております。俱知安町では五十余年の伝統を誇る地域に密着、愛されている納豆です。原料の大豆は、国産と中国産の二種類があります。しかし中国産は、現在の社会情勢から弱みを背負っている現状にあり、特に最近様々な騒動を起こして、消費者の中国産離れが目立っています。

このため「当施設で製造、提供している納豆の大豆は、どうなのか」「製造者としての責任上、大豆の圃場を確かめたい」との思いから、大豆の仕入れ先業者の中国黒龍江省にある八五二農場（人口約五万人の街）と契約栽培して日本で唯一直接に現地買い付けしている株式会社



果てしなく広がる大豆の畑に立つ私

とが多少でも見えれば、今回の旅の目的は果たせるはず」と言っていた。

正直、私自身、中国という国は、良いイメージを抱いていなかった。視察の結果では、中国産の大豆が、良い環境になればアメリカ、カナダ産の大豆への切り替えもありうると考えていました。

黒龍江省の八五二農場までの道のりは、本

「北星」（本社・千葉県）の鈴江挙一郎社長の配慮、協力で、現地視察が実現した。鈴江社長は「私が中国、そして中国産大豆をどう言う前に自分の目で確かめることが大切。大豆の圃場だけではなく、大連という都市、移動する列車の中、車窓からの風景、農場などその場所、場面で中国人がどう生活しているか。またどのような物を食べ、どのような服装か。そしてどのようなことに関心があり、どのような価値観を持っているのか。そのこ



同行していただいた北星の鈴江孝一郎社長と私

当に長かった。大連から列車で黒龍江省の佳木斯まで移動です。大連を十六時に発ち、佳木斯には翌日の十三時の到着。それから八五二農場の送迎車で六時間ほど揺られて、農場に到着しました。

農場の人たちは、たくさんの中国料理とトウモロコシで作ったバイチュウというお酒で大歓迎。至れり尽せりで迎え入れてくれました。農場長や副農場長、輸出を担当している市場部の部長も「北星の鈴江社長が日本からお客を連れてきた」ということで駆けつけていただき、

鈴江社長と八五二農場の絆の強さを垣間見ることができた。

中国毒ギョーザ問題で中国から日本への輸出が止まったときも北星への大豆だけは八五二農場の人たちの尽力で、輸入されていたという。

大豆の圃場を視察した。「広い！ 広すぎる！」。一区画が百畝という大きさに

す。当施設で使っている慣行栽培大豆の圃場での農薬使用状況は、除草剤に化学肥料を使い、散布は種をまいてすぐに、そして芽が出てからの二回。殺虫剤は、害虫が出れば散布一回。出なければ散布はしないとのこと。今年は、まだ散布はしていないという。殺虫効果のあるものは、よほどのことでないかぎり使用しない。このためにまかないようにとの工夫として防風林の下の草を燃やして害虫が発生しないようにしており、また大豆の遺伝子組み換えはしていない。

当施設では、中国産大豆の豆より時に土ほりがあり、虫食い大豆が多いことを問題にすることがありますが、これは汚いということではなく、自然に近いということが分かりました。

大豆の日本への輸出については、北星の現地駐在員が検査した上で出荷しているとのこと、大連の穀物倉庫なども視察してきました。今回の視察で、当施設の今後の使用大豆は、引き続き中国産大豆を使用していきたいと思った。中国産大豆がどうかということは、今回、実際に現地を自分の目で見なければ分からないことでしたが、少なくとも私は、八五二農場の大豆圃場を視察して匂いを嗅いで、触れて、感じてきました。最後に今回の中国大豆の圃場視察を認めていただいた当法人の広瀬清蔵理事長に感謝いたします。

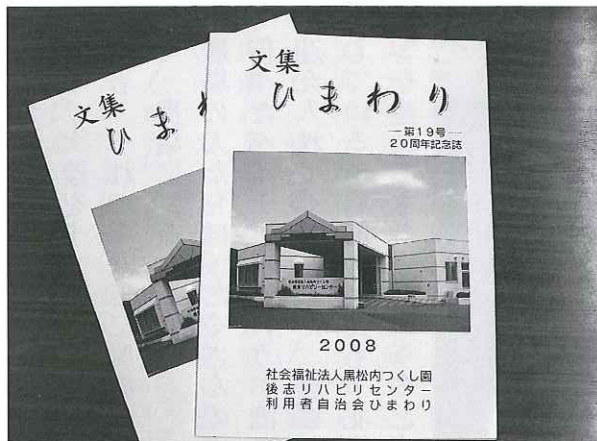
第十九号は「開設二十年記念誌」

リハビリセンターの文集「ひまわり」

後志リハビリセンター（福士憲昭施設長）の文集「ひまわり」十九号が、「開設二十年記念誌」として発行されたⅡ写真Ⅱ。

「ひまわり」は利用者の自治会名。文集は毎年発行し、二十年を機にこれまでのB5判からA4判にサイズアップ、見やすさも倍増した。

利用者が、日ごろの生活、夢や願い、好きなことなど



自由なテーマで書き上げた、生き生きとした作文を掲載。長さもまちまちだが、どの作品にも心がぎゅっと詰まっている。十九年度の行事写真は、約百七十枚のカラー写真で紹介し、利用者の表情、職員とのふれあいなどを余すところなく伝えている。三百冊を作成。

頑張れ！当法人の野球队チーム

全国目指して今月14日に白老で道予選会

九月十四日（日）に白老町の桜丘公園町営野球場で行われる全国社会福祉軟式野球大会の北海道予選会に当法人チームも出場する。

社会福祉に関係する青少年（職員）の健康増進と親睦を目的に全国社会福祉軟式野球連盟が福祉新聞社等の後援で毎年、開催しており、今年の全国大会（十一月に愛知県豊田市）は二十六回を数える。当法人チームは、昨年に続く道予選出場。緑ヶ丘老人ホームの津田利幸施設長が部長で、黒松内、京極、俱知安の各施設と黒松内町社協を含めた職員でチームを編成している。

監督は、函大有斗高の時に甲子園出場の富樫孝貴（しりべし学園）。主将は社会人野球の森クラブに所属する沢向竜也（慶和園）で、主戦投手の中谷竜太（しりべし学園）や忠鉢貴之（黒松内社協）などほとんどが高校時代の硬式野球経験者。以下は当法人のメンバー

▽つくし園 吉野真弘、塚本寛、藤田剛、森本一也 ▽

老人ホーム 長谷川隆太 ▽学園 佐々木博、富樫孝貴、

中谷竜太、渕野敏男、伊藤伸晃 ▽リハ 遊部真澄、高

橋陽佑▽老健 花田有史 ▽デイ 竹鼻孝志 ▽セルプ

藤田浩孝 ▽慶和園 沢向竜也、渋谷剛、増田亮、和

田光 ▽黒松内社協 忠鉢貴之、山本啓太、赤坂直紀

10月11日に職員交流会

全職員を一堂にした法人職員交流会が、十月十一日(土)の午後六時半から黒松内町の総合町民センターを会場に開催する。

十八年十月十四日に開催した法人五十周年と広瀬清蔵理事長の北海道功労賞受賞記念祝賀職員交流会以来、二年ぶりの全職員交流会で、法人役職員を含め約三百人の出席を見込み、当日は広瀬理事長の講話のほかアトラクションを中心にした宴で交流を深める。

◆パークゴルフ

第十一回後志管内老人福祉施設養護老人ホーム利用者交流大会(7月16日・余市町あゆめ公園パークゴルフ場) 法人関係分

▽男子 ②大沢藤雄(老人ホーム) ④戸巻宗治(同) ⑤小番英次(同)

▽女子 ⑥高橋フミ(慶和園)

道社協会長の顕彰

二十年度北海道社会福祉大会が九月一日に札幌市で開かれ席上、福祉施設勤続二十年以上の永年勤続者に贈られる道社会福祉協議会の会長顕彰で当法人から町ディサービスセンターの主任介護員、増山順子さんと養護老人ホーム慶和園の支援員、石井英子さんの二人が受彰した。

小樽後志地区社会福祉協議会連絡協議会長表彰(8月21日・岩内町文化センター) 法人関係分

▽社会福祉施設永年勤続功労者(12年以上) 広瀬悦子(湯の里黒松内) 大谷寿枝(後志リハビリセンター) 中山裕子(養護老人ホーム慶和園)

生きがい
ふれあい

九月の行事予定

▽4日 法人職員交流会実行委員会(法人本部)

▽7日 しりべし学園ふれあい運動会(学園分校グラウンド)

▽10日 事務担当者会議(法人本部)

▽14日 福祉野球北海道予選会

(白老)

▽17日 黒松内町、京極町敬老会

▽18日 施設長、副施設長会議(法人本部)

▽23日 法人新職員採用面接日(法人本部ほか)

▽25日 法人人事委員会(法人本部)

▽26日 法人理事会(法人本部)

人 事

緑ヶ丘老人ホーム

「退職」(7月31日) 調理員 廣島敏子

「採用」(8月20日) 支援員 伊藤喜美子

後志リハビリセンター

「採用」(8月1日) 柔道整復師 鎌田恭彰

「退職」(8月31日) 栄養士 武井ひろみ

看護師 永原志津子

「採用」(9月1日) 栄養士 佐藤麻衣

湯の里・黒松内

「退職」(6月30日) 臨時介護員 田中雪美

慶和園

「採用」(8月1日) 看護師 高木十代子

入札結果

(8月28日・黒松内町民センター)

▽身体障害者療護施設・後

志リハビリセンター増築工事 株式会社木村建設組(黒松内町)

末永くお幸せに
慶和園の酒井めぐみ支援員
が結婚

慶和園の支援員、酒井めぐみさんが7月26日に黒松内町在住の水上将次さんと結婚、入籍しました。

ご厚志に心から感謝申し上げます

(平成20年6月21日から20年8月20日)敬称は略させていただきます

中村昭(黒松内) 広瀬清蔵(同) 武井光秋(同) 津田利幸(同) 櫻原伊佐美(札幌) 札幌医療秘書福祉専門学校(同) 旭川大女子短大(旭川) 草野澄(室蘭) 浜塚恵美(北広島) 滝沢忠(黒松内) 稗田静男(同) 金子光司(寿都) 菊池茂美(同) 工藤直幸(札幌) 平賀元氣(同) 北海道新聞社会福祉振興基金(同) 武田繁(滝川) 中村寛(長万部) 高木晴男(今金) 桜井信八(ニセコ) 中村和男(京極) 佐々木豊子(同) 藤沢喬(同) 三建サービス工事(札幌) 三建設備工業道支店(同) 滝沢実(小樽) 坂本次男(京極) 高橋武志(同) 榎本美智子(同) 菊地由紀子(同) 佐々木武(俱知安) 大友造花店(同) 中西正清(黒松内) 花田忠雄(同) 福士憲昭(同) 茂木千鶴代(同) 渋谷孝子(同) 高橋静子(同) 関念益次(長万部) 森千栄子(同) 有賀カチエ(同) 奥田康二(京極) 鈴木洋子(同) 鳩沢つね子(京極) 安田良一(同) 守有道(同) 真狩羊蹄園(真狩)

湯の里祭りに今年もヨサコイの天舞龍神

湯の里・黒松内で八月三十日、「湯の里祭り」がにぎやかに開かれ、利用者、職員ばかりでなく、地域住民もいっしょに楽しんだ。

今年で三回目の来園となる札幌・新琴似「天舞龍神」が、今夏のヨサコイソーランまつり準大賞に輝いた見事な群舞を披露。華麗で迫力たっぷりの踊りが見物者を魅了した。今金音楽愛好会も多彩な楽器で演歌を中心にした演奏で、利用者を喜ばせ、また、焼き肉やたこ焼きなどの出店も好評を博した。

編集後記

▼盛夏の夜は『花火』。施設生活のお年寄りに本格的な花火を楽しんでもらいたいと七夕の八月八日の夜、京極・慶和園の上空にスターマインなどの本格的な花火が乱舞した。職員が一人千円以上を拠出しての花火大会。利用者を思いやる気持ちが、一大イベントになって、夏の夜を美しく飾った▼利用者が喜び、地域住民からも拍手喝采をーと企画された花火大会。ベッドに寝ながら見られるとあって、どの利用者も最大の満足度。音も一緒にと窓を開けての花火見物に「最高だ」「まさか慶和園で、大輪の花火が見られるとは」「今夏が一番の楽しみだった」とこれ以上は無いとの賞賛が相次いだ▼地域住民からも大反響で『明年は協力しますよ』との声も。経費節減で打ち上げを特訓した男性職員も「近くの道路や堤防も人の山」と驚きの言葉。いろいろ実践した行事、催しよりも、今回の『花火』が利用者、地域住民に強烈な印象を与えたことは間違いないさそうだ。

(R・Y)

法人会報64号

2008年(平成20年)9月1日発行

社会福祉法人・黒松内つくし園(広瀬清蔵理事長)

〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町黒松内562

電話 0136(72)3320 FAX 0136(77)2833

E-Mail honbu1@viola.ocn.ne.jp

http://www.tukusien.com/

法人会報「ブナの里」編集委員会(委員長 安田良一)